

「子供の頃から味にうるさくて、母の料理に『出汁が足りない』なんて言っていたらしいんです」。そう笑う堀内亮さんは、京都で生まれ、家族から「将来は料理人だね」と言われて育った。高校卒業後、調理師専門学校へ。そこで運命を変える出会いがあった。担任が見せてくれた、世界最高峰の料理コンクール「ボキューズ・ドール」のドキュメンタリー映像だ。「料理の世界にも、こんなにオリンピックのような場所があるのか、いつか出場したい」。

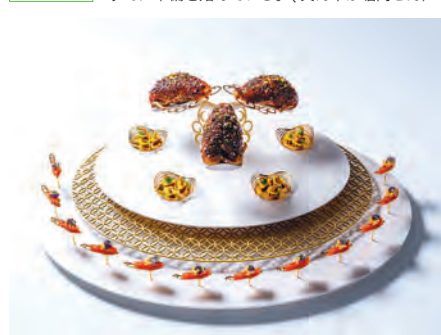
卒業後、東京の名店「ロオジエ」をはじめ、本場フランスの三つ星レストラン「レジス・エ・ジャック・マルコン」で副料理長を務めるなどキャリアを築いた。令和4年、福井の老舗「ル・ジャルダン」の再生を託されシェフに就任。しかし世界一を競う技術と、地方都市でのレストラン経営という壁が立ちはだかる。「最初はおいしいものを作ればお客様は来てくださると思っていたが、ここでは人口が少なくアピールするところからで、とても勉強になりました」。

現在、堀内さんは10代に夢見た「ボキューズ・ドール」の日本代表を獲得している。前哨戦である今年1月の日本大会決勝では、深夜や明け方まで練習を重ねて挑んだ。出場するだけでも



「オール福井」で挑んだ舞台で優勝19歳から追い続けた世界一への夢へ美食家が通うレストランにしたい

堀内 亮



ボキューズ・ドール日本大会の完成品。福井市特産のニンジン「きやろふく」を使用している。台座は福井の職人たちと仕上げた。

費用がかかるが、ル・ジャルダンの社長や多くの人が応援資金を提供してくれたという。「なぜこんなことをしているのかと思うけれど、前回で敗れた悔しさがある。勝たないと報われない世界」と気持ちを高め、福井の地域にちなんだ野菜を取り入れ、調理台に置く小道具も作り込んだ。盛り付け用の大皿（ブラッター）制作では福井のデザイナーや眼鏡製造、漆器、筆筒職人らとタッグを組み、「お前ならもっとできる」という先輩からのプレッシャーの中で見事優勝を果たした。

かつては「自分ががんばればいい」と考えていた時期もあった。しかし今、スタッフと共に働く充実を知り、知らなかった福井の食材にも手応えを感じている。「ル・ジャルダンに行くために、福井へ行こう」、そう世界中の美食家に言わしめる日を夢見て、堀内さんの挑戦は続いていく。



郷土工芸品「輪島塗」輪島特産の「地の粉」を下地に使い、木地に布を貼り補強することで抜群の堅牢さを誇る。

遊楽彩祭

三谷市民文化振興財団ニュース

福井と石川の郷土料理

山うに

300年以上も前から鯖江市や池田町などの山間部の家庭に伝わる薬味。名前はうにだが、海のものに使われていない。すりつぶした黄ゆず、赤なんば(萬願寺唐辛子)にたかの爪と塩をすり鉢で混ぜて練り上げてペースト状にしたもので、鮮やかな朱色がまるでうにのようであることが名前の由来。ぴりつとした辛味の中に、ゆずの爽やかな風味が香るのが特徴で、今では商品化され季節を問わず食べることができる。



出典：農林水産省「につぼん伝統食図鑑」

今庄つるし柿

北陸道の宿場町「今庄宿」があった南越前町の名物。11～12月上旬につくられ、冬の間に食される伝統食である。「長良(ながら)」という品種の渋柿を用い、干した柿をナラやケヤキをくべた煙でいぶして乾燥させることが特徴。日光で乾燥させることが困難だったことから、囲炉裏でいぶしたのが始まりとされ、いぶすことで独特の香りや味が出るほか、カビの発生が抑えられる。表面に付着している白い粉は、糖分が結晶化したものであり、甘さの証拠である。



出典：農林水産省「につぼん伝統食図鑑」

なすのオランダ煮

金沢市の郷土料理「なすのオランダ煮」は、揚げたり下ゆでしたりしたなすを、だし、醤油、砂糖の甘辛い汁で煮た料理で、旬の夏場（特に8月）に作られる。江戸時代に長崎から伝わった西洋の調理法（油を使う）が「オランダ煮」の名の由来と言われている。特産「へた紫なす」の甘みととろける食感が特徴で、冷やして食べるとより一層美味しい夏の定番となっている。



出典：農林水産省「うちの郷土料理」

きしず

白山五院のひとつである大聖寺の門前町として栄えていた加賀市の大聖寺町で、法事や報恩講（親鸞の遺徳を偲ぶ仏教法要）の際に食べられている精進料理。くずぎり、わかめ、きくらげ、たけのこ、すだれ麩、湯葉などを細長く切って錦皿に盛り合わせ、刺身の代わりとして食べられている。「きしず」はタレのことで、昔は調味料にけしの実を使用しており、「けし酢」から「きしず」と呼ばれるようになったと言われている。



出典：農林水産省「うちの郷土料理」

出典：農林水産省「につぼん伝統食図鑑」Webサイト <https://www.maff.go.jp/j/keikaku/syokubunka/traditional-foods/index.html>
出典：農林水産省「うちの郷土料理」Webサイト https://www.maff.go.jp/j/keikaku/syokubunka/k_youri/search_menu/area/ishikawa.html

一般財団法人 三谷市民文化振興財団

〒910-0857 福井県福井市豊島1-3-1 三谷ビル
TEL：0776-20-3188 FAX：0776-20-3306

2026年5月発行・このニュースに関するお問い合わせは、☎03-6451-0536 ホービスト(株)まで

福井と石川の無形文化財

国山の神事 1月3日

かつては「ナルワイ」「タガヤシ」と呼ばれ毎年実施されていたが、その後4年に一度、正月3日に八王子神社での開催となった（現在は休止中）。年の始めに一年の農作業の様子を模倣的に演じ、その年の豊作を祈るもので、神事は三部構成。第一部は仕事始めから苗ほめまで、第二部は苗取りから田植えまで、第三部は田刈りで、行事の締めくくりはあらかじめ社殿の天井いっぱいに吊り下げられているシバをいっせいに引き落とすシバ引き。床にたくさん積もるシバが稲の豊作を示していると言われている。神事は夜の9時に始まり、深夜の1時ごろに終わる。(福井市)



御陣乗太鼓 7月最終土日

御陣乗太鼓（ごじんじょだいこ）は、輪島市名舟町に伝わる鬼や幽霊の面をつけた男たちが勇壮に太鼓を打ち鳴らす伝統芸能で、400年以上の歴史を持つ。1577年、現在の珠洲市に攻めてきた上杉謙信の軍勢を、樹木の皮と海藻で作った仮面を被った村人たちが、太鼓を打ち鳴らし奇襲で追い払った伝説に由来する。始めはゆっくり、次にやや早く、最後はもっと早く、序・破・急のリズムで魂を揺さぶるような激しい演奏が特徴で、各自が自由な形で見得を切り、面に応じ個性を生かした芸を入れるのが、御陣乗太鼓の見どころである。(輪島市)



ふるさとめぐり 第18回 あわら市

伝説

…嫁威し谷伝説…

毎晩、あわら市の吉崎へ蓮如上人の説法を聞きに行く嫁を快く思わない姑が、ある時鬼の面を被って脅すが、その面が顔に付いてしまい取れなくなってしまった。己の邪心を悔いた姑は、嫁と息子に連れられて蓮如の前で泣きながら罪を懺悔した。蓮如が「南無阿弥陀仏」の教えを説き、姑が心から改心すると、面はポロリと取れたという。「嫁威し肉付きの面」とも呼ばれている。



伝説に会いに行く

嫁威し谷 ■住所：あわら市山十楽62-24-1

一般財団法人 三谷市民文化振興財団 助成団体募集!!

募集期間：2026年10月1日～11月30日

一般財団法人 三谷市民文化振興財団は、福井・石川県内におけるボランティア活動、スポーツ活動、市民文化活動の振興を通じて「こころ豊かな地域づくり、社会づくり」に貢献することを目的として、2026年度の助成団体の募集を行います。

▶募集の要領

- 助成の対象分野
 - ・ボランティア活動
 - ・スポーツ活動
 - ・市民文化活動

●助成の対象となる団体

■営利を目的としない次の条件を満たす団体

- NEW**
1. 福井県および石川県内で活動している団体
 2. 会員が5名以上の団体
 3. 設立1年を経過している団体
(2025年10月以前に設立したもの)
 4. 特別な資格・経歴等の条件を必要としない、
個人で加入できる民間の団体

- 助成金額 1件あたり約20～50万円

- 応募方法 所定の申請書をホームページからの電子申請、
郵送およびご持参ください。

- 結果連絡 選考委員会による審査で決定し、2027年1月上旬
までに団体代表宛に連絡いたします。
(採否の理由に関するお問い合わせには応じ兼ねます。)

- 助成金贈呈時期 2027年1月下旬

上記より詳しい募集要領がございます。
以下にお問い合わせをしてから、ご応募ください。

まずはお問い合わせを！

★ホームページから募集要領を読む

三谷市民文化振興財団のホームページへアクセス
<http://www.mitene.or.jp/m-zaidan/promo.html>
または検索エンジンで↓

三谷市民文化振興財団

検索

★お電話で募集要領を取り寄せる

☎ 0776-20-3188 (一財) 三谷市民文化振興財団



金沢市

「朗読ユニット音がたり」 朗読と芸術の「コラボ」五感で感じる文学の世界

朗読家・戸丸彰子さんを代表として設立され、現在のメンバーは9名。朗読とさまざまな分野の芸術をコラボレーションすることで、文学を五感で感じることができ、「朗読ライブ」という新しい世界を作り上げ、幅広い年代の方に楽しんでもらえるよう活動を続けてきた。これまで2カ月に1回の割合で石川県内での朗読ライブ公演を行ってきたが、震災以降は能登チャリティ公演や、東京での復興支援朗読ライブも本格化させ、広く復興支援を呼びかけている。公演には全国から著名なゲストを呼ぶことも多く、金沢と各地を結ぶことで、金沢ゆかりの文学を全国に広める活動も行っている。



越前市

「福井今立道場」 剣道を通じて人としての成長を目指す

「念貫岩」ひとつの事を思い続けることで、岩をも貫く力になる」をモットーに、剣道を学びながら、人として強く優しく成長することを目指し活動が続いている。設立当初は小・中学生のみであったが、現在はOBの高校生、大学生、一般の方も稽古に参加。毎週3回、2時間の稽古では、初心者、小学生、中学生ごとに担当指導者を分けて指導。県外への出稽古や錬成会にも参加し、交剣知愛（稽古や試合を通じて互いに理解し合い、人間的に向上すること）の精神を養うと共に、合宿やレクリエーションを通して団員同士の親睦を深めている。

「小次郎の里・武道フェスティバル」への出演や、越前市内の剣道大会への補助員協力等、地域への貢献も大きい。



南越前町

「災害復旧支援（DSG）ふくい」 自然災害被害者の復旧支援活動に尽力

身近に発生する自然災害に見舞われた方の復旧・復興を支援する事を目的として、3年前に4名のメンバーで結成された。活動開始当初から珠洲市、津幡町、綾部市、米原市等で発生した豪雨や地震、土砂災害に対する復旧支援活動を行っている。珠洲市ではNPO災害看護研究所、NPO災害ボランティア愛知人等の団体と連携し、復興サロンでの餅つきや、おろし蕎麦、焼き鯖寿司等の提供を実施。被災地では他団体との連携のもと、生活環境の整備のほかに、各種機械設備や資機材・工具の操作、整備方法の講習も行っている。

福井の高校生等を対象にしたロープワーク講習、写真洗浄ボランティア等、次世代にボランティアを繋げるための活動も積極的に行っている。

三谷市民文化振興財団の助成団体



金沢市

「大正琴おひさまグループ」 大正琴でひとときの楽しい時間を提供

大正琴を演奏しながら歌と一緒に歌ったりすることで、高齢者施設に入所している方々や子育て中の親子が、ひとときの楽しい時間を過ごせることを願って結成された同グループは、結成15年を迎えた。

大正琴は大正時代に名古屋で生まれた日本発祥の弦楽器。数字が書かれたキーを左手で押し、右手のピックで弦を弾くだけで、ピアノのようにドレミの音階を簡単に奏でられる手軽さが特徴だ。

月2回の練習で演奏技術の向上に努めながら、高齢者施設や児童館などを訪問し、大正琴やハモニカでの演奏、歌、紙芝居などを共に楽しんでいる。



志賀町

「志賀学童野球クラブ」 仲間との協力の大切さや礼儀も学ぶ

12年前、近隣の小学校の統合に伴い、それぞれの学童野球クラブもひとつに統合されて設立された。週に5回、小学校のグラウンドや体育館、近隣の球場等で、キャッチボールやバッティング、ノック練習を中心に、基礎体力づくりやチームワークを高める活動も行っている。日々の練習を通じて、野球技術の向上だけでなく、仲間と協力することの大切さや礼儀もしっかりと学んでいる。

一昨年、石川県能登地区は地震による大きな被害に見舞われたが、それでも野球を諦めず仲間と支え合いながら努力を重ね、昨年は「高円宮賜杯第45回全日本学童軟式野球大会」への初出場を果たした。

福井市

「シニア劇団あすなろ」 幅広い世代に楽しい舞台の提供を目指す

シアター「WATELA」を引き継ぐ形で5年前に再出発した同劇団は、今までに2回の公演を行い、いずれも好評を博している。

週2回の稽古を経て今年5月に開催された3回目の公演は、日本民族衣裳源流会との合同公演。従来の小ホールではなく、衣裳の視覚効果等を考慮し大ホールで開催された。舞台は平安時代、江戸時代、昭和、現代のタイムスリップ形式で、絢爛豪華な時代衣装や着付けを披露した。楽しい芝居と豪華な衣装、着付けの技だけでなく、民謡、剣詩舞、日本舞踊、バレエと見所は満載。演劇人口は高齢者の割合が多い傾向が見られるが、高齢者だけでなく幅広い世代が楽しめる内容となっている。